

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	和合こども園ふぁーる		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日 ~ 2026年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数) 35人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日 ~ 2026年 2月 14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	総合的な支援が出来る療育施設として、プログラムの明文化で集団と個とそれぞれにアプローチできる。	アプリの活動記録を活用し、プログラムのねらいや内容も保護者と共有することから、より意欲的で効果的な参加に繋がっている。	プログラムのシェイプや課外からの講師なども招へいし、より質の高いサービスと事業所運営も視野に入れたい。
2	開所当初から関係機関の連携に注力しており、訪問支援からは所属園での生活にもアプローチできる。	目標の相互共有から支援の方向性がはっきりして、かかわりを一定化できることでより有意義な成長を期待できる。	定期的な訪問から支援内容のアップデートもタイムリーに共有できると良い。
3	親子療育の提供から、家族支援においては親子療育への参加から、特性等の理解と関わり方も実地出来る機会となる。	親子グループの中で活動に対するミーティングを複数回持ち、保護者と一緒に子どもについて考えて関わる機会から信頼関係の構築に寄与している。	テーマに関してのトークにとどまらず、保護者ニーズを幅広く拾えるフリートーク的なミーティングも取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	総合療育を遂行しているが、家族支援・地域支援等も親子療育や保育所訪問での対応に担えるスタッフの人数(絶対人数)も少なくニーズに応じきれしていない。並行通園も物理的環境的から制限があり、ニーズに応じた受け入れが出来ない(見学・利用申し込みへの対応)	児童発達支援事業所の数は増えているも、左記のサービスを担える事業所が少ないため、当該事業所への依頼に繋がっているとも感じる。	スタッフのスキル・キャリアアップとコンサルテーションの拡充などは考えられる。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表日 令和8年 2月 18日

利用児童数 37人 令和8年 2月 16日集計

回収数 35/37人

事業所名		チェック項目					ご意見	
和合こども園ふーろ		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			ご意見を踏まえた対応
環境 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。					遊び場と活動の場がしっかり分けられているので子供も集中できると思う。※感覚統合遊具と座って楽しむ遊びスペースとの間が狭く、遊具で思いっきり遊んでいる子供がいると座って楽しむスペースにいる子にぶつかりそうでドキッとした場面があった。先生方は危険がないように見ていてくれるが、もう少し広いスペースがいいな。	なういをもった動と静の遊びの環境ではあるが、怪我のリスクに対しての環境調整をすめたいと考えます。(ゾーニングや可動式の調整など。)
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。					適切だと思う	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。					ロッカー、ラミネートで図解してあるので分かりやすい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。					おもちゃも子供が整理しやすくなっており、清潔で整頓されている。活動終了後に所定消毒して下さっている姿を見ているので安心	引き続き毎日の環境整備(清掃と消毒)を継続していきます。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。					子供に合った声掛けがされている	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。					子供の特性を踏まえたプログラムだと思う	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。					現在の課題等を考慮して作成されている	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。					具体的な支援内容になっている	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。					そう思っている	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。					同じようなプログラムでも活動の内容が違ってたりするので試されている。※活動でも子供の様子を見ながら、マイナーチェンジしてくれている	プログラムの明文化と、毎日のメンバーに応じた設定変更は都度実行されておりま。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。					日か抜いたためわからない。※幼稚園訪問でも子供のことをよく見て様子を知ることが出来て安心。※園庭を使うので園児とも一緒に遊んでいるようだ。	デイリープログラムにおいて、午後の園庭遊びでは併設のこども園の子どもたちとの交流があり、スタッフも入って集団遊びに風通しをさせるなど、密に接して遊ぶ機会ともなっています。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					丁寧に説明してもらった	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					説明を受けた	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。					家で取り組みそうな遊びや動きなど情報収集や勉強会があるといい。※毎月実施して子供も楽しみにしている	月曜と土曜日プログラムにおいて実施しており、テーマを絞った勉強会も開催しています。テーマを広げ、家庭でもできる親子遊び等、研修的な実施を検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。					出来ている※連絡アプリを使って家での様子や事業所利用時の様子を共有できている	昨年度よりアプリ活用での活動内容やねらいの共有はすすんだように思います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。					日か抜いたためわからない。※定期的ではないが子育てに関する助言などをする場を設けてくれる	夏季・冬季は面談期間として、モニタリングや次年度についての話をする機会を設けております
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。					そう感じている	基本的には思いの受け止めが支援の前提となります。「登はそう思うんだね。」との共感から信頼関係を構築しています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					保護者同士の交流の機会はよくある。兄弟同士の交流はわからない。※イベントなどで兄弟も参加させてもらったり、送迎時に仲間にいらしてもらったり、兄弟も含めて支援してもらっているで兄弟も楽しみにしている。	父母会は発定していません。親同士の交流は親子グループ、兄弟はイベント参加にて場面を設定しており、その支援の必要性も大きく感じています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	34	1	0	0	適切に対応してくれている	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34	1	0	0	アプリの活用でできている	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	33	0	0	2	毎回、写真と様子の分かるメッセージをあげがとうございます。※アプリを使用して連絡を貰っている。行事予定が1か月前に分かるようになっている	アプリの活用が定着してきましたが、ニーズもあり、もう少し早い活動予定のアップを心がけます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	1	0	1	そう信じている	留意して取り組んでおります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30	1	0	4	併設園でも訓練しているので、同時に実施しているようだ	定期的に実施しています。今後は実施日には状況を公開するなど共有したいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	1	0	5	そう信じている	上記同様に保護者との共有に努めます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	33	1	0	1	そう思う。※感覚統合の遊具の使用場面でドッキリとしたことはある。	安全確保は前提として、設定された遊具ではリスク回避も必要な経験値として取り組んでいます。もちろん怪我をしない事が前提です。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27	4	0	4	連絡してくれている	今年度は2件通院を要する事故が発生しており、行政報告と保護者への説明今後の取り組みの確実もさせてもらっています。また、重要事項の説明時と説明会においても事故発生への対応について丁寧に説明しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34	0	0	1	初期段階から先生たちのことが好きになり週に1度の利用だが信頼関係が築けて安心感をもって通っている。※安心感はもちろん楽しく通っていることが嬉しい。※安心感があるから通える	安心できる人・場所だからチャレンジできる場所としてあり続けたいと考えております。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	1	0	0	好きな先生や友達がいること、わくわくする支援や遊びがあることで毎週楽しみに通っている。※楽しかったといつも思っている。※通うことをとても楽しみにしている※当初に活動内容を写真付きで知らせて、終了後その日の写真とともに知らせてくれるので、親子で活動を見てやり取りができるうえ、子供は意欲をもって参加できるので嬉しい	楽しい場所、楽しいから学びの場として、これからも日々アップデートしてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	0	0	0	通所するようになり子ども自身の成長もあるが親からの刺激で成長した部分も多く、通所することを決めた本当に良かったと感じ。親としても面談などで専門的な話を聞くことが出来て、現状や課題が明確になり前向きな気持ちで子供と関わることが出来ている。※いつもありがとうございます※通所するようになって良い方に変わっている。※気になることは食育をみんなで同じものを使用することを覚えてほしい※通うようになって色々なことが出来るようになり次の目標も明確になってよかった※契約に当たっていくつかの事業所を見学したが大切な子供を安心して任せられる、任せたい、子供の成長発達のために力を貸してほしいと思って申込した。※先生方はとてもしっかり子供たちの様子を見てアセスメントしてくれている。親の話をよく聞きアドバイスしてくれるので、ここに通ってよかった	たくさんのご意見ありがとうございます。ご指摘があった食育の扱いにつきまして、配慮が必要だったと反省します。今後は気を付けてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		回収率：		公表日	
和合こども園ふぁーろ		100%		2026年2月18日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		仕切扉の開閉により活動内容に応じて室内を区切り効果的に使われている	グループ(親子)に応じた調整や活動内容に応じた展開が出来ている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	10		前日までや当日の状況によって臨機応変かつ内容や出席の現状を考慮し配置されている	人数に対して、サービスに対して適切な配置調整を継続していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		仕切りの扉あり。情報の選択が出来る、多くならない。	構造化を前提に、個の特徴と目標に応じた活用と必要用品の整備を続けたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日綺麗	毎日の清掃と消毒は大事だが多様な多様な集団からの参加事業所としては必須であり継続する。
業務改善	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		個別の部屋、スペースという認識ではないが部屋を分けることが出来る	個別対応については必要に応じての活用が前提であり、当事業所としてはアセスメントや面談を主に利用できている。
	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	3		多様な勤務スタイルの中で一緒に会ってのミーティングは日常的にはとれないが、アプリ活用での共有はすすんでいる。ステップアップを意識したい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		話しやすいよう声掛けに努めている	日常的なコミュニケーションと、ご家庭によっては定期的な面談設定も必要で、今後もニーズの整理をしながら対応したい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	6		
適切な支援の	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10			
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		作成した書類を職員間で共有出来る	アセスメントのツール・実施スパンに応じた評価も確立しており、効率化有効化も目指したい。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10			
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		毎日ミーティングが行われている	毎日のミーティングについて、内容と質、効率化は目指したい。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		各職員が意識を高く持って行っている	アセスメントのツール・実施スパンに応じた評価も確立しており、効率化有効化も目指したい。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		その日の利用者や当日の現れにより配慮と工夫がなされている	プログラムによって、メンバーによって環境への影響や個の表れは毎日違う形になる。その想定と対応にはスキルが求められるも、教育現場の支援員としては一番注力すべき点であり、日々のミーティングですり合わせを今後も繰り返していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		集団の中で個別の関わりの場面がある	両面においての表れを支援目標としている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		積極的に行っている	積極的な連携は事業所の強みとしており、継続する。
	26	併用利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10			移行支援も明確に示しており、連携して子どもたちの成長にしっかりとアジャストさせた支援を今後も目指したい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	2	児童発達協会 外部研修を通して認識の再確認はとれる	今年度はセンターからのスーパーバイズの機会はなかった。スーパーバイズ・スーパービジョンについては独自の講師の心理士の存在からのカバーは受けており、今後はセンターとの連携も機会があれば受けていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		積極的に行っている	保護者との共有もアプリ活用で有効化効率化にいつなっており、継続したい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		研修ではないが話をする機会はある	フォーマルなプログラムは未実施であるが、月4回の親子グループを定例機会として、またはミーティングで短時間と関わり方を深める機会としている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			

衆 議 者 入 の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	1		アセスメントをはじめ管理は徹底しており、オリエンテーションでの再確認を実施したい。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	4		地域住民さんとの関わりは持っていない。隣接の子育て支援ひろばでは交流もあるので、場面活用を検討したい。
非 常 時 態 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状態を確認しているか。	10			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	保護者からの聞き取りのみ	状況に応じて嘱託医師からの指示を受けられる体制は整えている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	どんなヒヤリや事故があったか共有出来るようすぐ見える所に再発防止策も含め報告が見える所にあると良い	事業所として感覚運動を大いに実施しており、そのリスクをカバーすべくハード面や報告書の共有等はすすめたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	1	身体拘束をしたことがない	支援計画への記載は全ケース行っている。ご利用者全員の理解へ、説明責任も果たしていきたい。